

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 1	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Reply to 'Alcohol consumption and risk of Hodgkin's lymphoma and multiple myeloma: a multicentre case-control study' by Gorini et al.	
Gorini らによる”飲酒とホジキンリンパ腫と多発性骨髄腫の危険性について”論文への返答	
執筆者	
Deandrea S, Bertuccio P, Chatenoud L, Franceschi S, Serraino D, La Vecchia C.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Ann Oncol. 2007 Jun;18(6):1119-21.	
キーワード	
飲酒、ホジキンリンパ腫、多発性骨髄腫	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>Gorini et al.は飲酒はホジキンリンパ腫に有益であり、多発性骨髄腫も有意でないが飲酒量と負の関連を示すと報告している。飲酒量とリンパ腫のこれらの知見は報告により様々である。近年の解析では飲酒者は非ホジキンリンパ腫のリスクが低いとされている。しかし、飲酒量とリンパ系腫瘍の関連は未だ解明されていない。我々の症例対照研究による飲酒量とリンパ系腫瘍の関連の検討を紹介する。</p> <p>方法：</p> <p>1990年代初頭に北イタリアにおいて飲酒量とリンパ系腫瘍の関連を症例対象研究で検討した。症例は17-79歳のリンパ系腫瘍症例966人(ホジキンリンパ腫158人、非ホジキンリンパ腫446人、多発性骨髄腫141人、軟部ザルコーマ221人)。対照は同地域の病院に急性疾患、非腫瘍性疾患、非免疫性疾患、非消化器疾患のために入院した者1295人。熟練した面接者が質問表を用いて、社会的、地理的特性、身体計測、病歴、特定の職業および環境曝露、喫煙、飲酒について情報を得た。飲酒とリンパ系腫瘍の関連を検討するため多変量ロジスティック回帰でオッズ比(OR)と95%信頼区間(95%CI)を求めた。</p> <p>結果：</p> <p>最も多く飲酒する者(≧5 drink/day)のホジキンリンパ腫のORは0.66(95%CI: 0.36 - 1.23)、非ホジキンリンパ腫のORは0.91(95%CI: 0.60 - 1.38)、多発性骨髄腫のORは1.16(95%CI: 0.59 - 2.28)、軟部ザルコーマのORは0.67(95%CI: 0.38 - 1.16)であった。いずれ腫瘍も飲酒量との関連は統計的に有意でなかった。飲酒量と腫瘍のこのような関連は非喫煙者と喫煙者でもかわらなかった。</p> <p>結論：</p> <p>これらの結果は中等量飲酒がリンパ系腫瘍に有益に働くというGorini et alの結果と一致していた。しかし、飲酒とリンパ系腫瘍の関連に喫煙が交互作用を示すというGorini et alの結果を支持するものではなかった。</p>	